

第3回大東市デジタル化推進本部会議 議事要旨

日時：令和4年2月2日（水）午後4時00分～5時00分

場所：オンライン会議

出席：東坂市長、野田副市長、水野教育長、松本上下水道事業管理者、
田中理事兼総務部長、品川理事兼議会事務局長
中村危機管理監、木村市民生活部長、奥野人権政策監、北本保健医療部長、
今出都市整備部長、北田産業・文化部長、延田上下水道局長、
北田教育総務部長、伊東学校教育政策部長、
辻本選挙管理委員会・公平委員会・監査委員事務局長、山鬼会計管理者
（事務局）
清水政策推進部総括次長、川口行政サービス向上室長、
田中行政サービス向上室課長、佐藤（デジタル化推進アドバイザー）

【次第】

次第1 講演「行政デジタル化の動向」

次第2 その他

デジタル化推進アドバイザーから講演。以下、質疑応答及び意見交換。

（副市長）

現在の国の動向、特に重点計画の中身について、ポイントを説明いただいた。これからの大東市の方向性も示唆いただき、興味深く聞いた。

“誰一人取り残さないデジタル社会”というキーワードだが、これまで認識を誤っていたことに気付いた。すべての人がデジタルにアクセスすることは難しいので、アクセスできない人には様々なパターンを検討して何とかしようというのが“誰一人取り残さない”という印象であったが、すべての人がデジタルの情報にアクセスできる社会を目指しているという理解でよいか。

（デジタル化推進アドバイザー）

できない方のフォローは当然する。今の副市長の話は、ステップで言うと、今日の私の話と現在の途中にあるものだと思っている。できない方に無理にやってくださいということは難しいので、そういう方に優先的にデジタルを使えるような施策もするし、今、手続をしたいということであれば対面でも対応する。一方で、今後そういう場面が継続

的に行われると窓口もひっ迫し、業務処理も大変になるので、どんどんデジタル化への移行を進めて、デジタルが使える人はほぼデジタルに、本当に使えない方たちには対面は残す、というのがデジタルファーストであり、今回示されている“誰一人取り残されない社会”だと思っている。

(危機管理監)

最後に話のあった“チャレンジ”ということに共感している。とにかく何でもチャレンジしないと前には進まないし、一番大事なことだと思っている。デジタルに関しては、何も分からない状況の中、手探りで進めているので、分からないでは前に進まない。どんどん私たちが吸収して、確かな情報を取りながら、動きを止めずに前に進む。これが各部長が共感できる内容の一つだと思うので、あとは佐藤さんに付いて行き、大東市が日本一のデジタル推進市になるように一致団結すればよいと感じた。

(市長)

国の動向から世間の現状、大東市が目指すべき方向、一人ひとりの考え方に至るまで話していただいたが、DXは、どうしても組織の中に先達がいる、その人たちが先行して、周囲の人たちに周知していくという形態が多いと思う。一方で、先達以外の一人ひとりがどういった形で情報を集め、どういった具体的な努力をすることでその先達の効果をより効果的に高めていけるのかというところで、何をすればよいか、何から手を付ければよいかという漠然とした疑問があると思う。そういう質問に対して、佐藤さんはどう答えるか。

(デジタル化推進アドバイザー)

先達の方たちが取り残されているケースが自治体では多いと思っている。先達は情報発信を、後続はそれを称賛したり、関心を持ったり、簡単に声を掛けるだけでもよいと思っている。そういったことで仲間の輪を広げて、先達を増やしていくという構図を作っていく。一部の自治体だと先達が浮いてしまって、先達側が取り残されていて、旧態依然としている方がメインストリームという状況があるのが、直近の課題であったりもするので、先達を称賛し、トライする、失敗するというのを認め合うという状態を皆さんで作るのが大事。

(市長)

今日参加しているメンバーが、一つの輪を作って、先達の情報を共有し、分からない場合も分からないなりに分かろうと努力しあえることが大事。佐藤さんには、これからもご指導いただきたいが、こういったオンラインは非常にイーザクセスで皆で情報を共有しやすいというところを今後とも発揮していただきたい。

(副市長)

他に何もなければ、本日の会議はこれで終了する。